ISSN 0286-1100

さざなみ

さいかち浜（長浜市高橋町）撮影：教務部学生課　成宮　護（詳細は８頁）

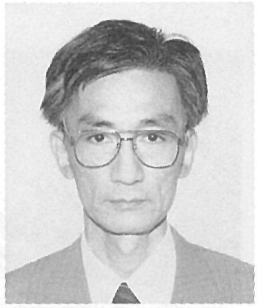
滋賀医科大学附属図書館報

No.44　　1999年２月

目　次

私の読書入眠法（不眠症ぎみの学生諸君へ）…生理学第一講座 教授　陣内 皓之祐…… 2
シリーズ本との出会い(9)
わたしは方向性のない雑学者 ……法医学講座 教授　西　克治…… 3
附属図書館利用講習会（報告）―平成10年７月～12月― …… 4
新着図書案内…… 5
「河村文庫」古文書、彦根市史編纂の資料に提供 …… 6
図書館等の増改築（コラボレーションセンター）工事始まる ―今秋に完成の予定―…… 6
「第５回医学図書館員基礎研修会」、本学で開催 ―全国49名の若手図書館員が参加― …… 7
附属図書館委員会委員（平成11年２月１日現在）…… 8
表紙写真について…… 8

私の読書入眠法(不眠症ぎみの学生諸君へ)



生理学第一講座
教授　陣内　皓之祐

低血圧である私は、日中は眠いのですが、夜は遅くまで起きていることが多く、午前3、4時になりますと、「翌朝×時に起きなくては」と焦りも手伝って、かえって眠れなくなることがあります。そんな時のために、読むと眠くなる本を数冊用意しています。今、枕元に置いているのは、道元の「正法眼蔵」です。解説書も数多く出版されているようですので、これを難解と感じるのは単に私の浅学非才だけによるものでもなかろうと思っています。平安末期から鎌倉時代の古文に、漢文、それも中国の禅僧の問答などが混ざっていますので、一頁も読みますと、わからない事が一杯になり、気が付くと眠っています。

「正法眼蔵」は面白過ぎて眠れないという方には、メルロー・ポンティの「知覚の現象学」「行動の構造」などをお勧めしたいと思います。

学生時代、「脳」とか「意識」などに興味がありましたので、著者が何者であるかなど全く知らないままに、タイトルに惹かれて買ってしまったのですが、中身は、哲学、心理学の知らない用語が続いていますし、また、邦訳文であるせいか、一つの文が大変長く、文末まで読むと何が主語だったのかも忘れてしまい、手に負えませんでした。

たまたま、同級生O君の下宿を訪ねた時（教室では決して会えない人でした)、この本の話をしたところ、幸か不幸か、彼はメルロー・ポンティの愛読者で、大層喜び、「二人で読書会をやろう」と決めてしまいました。大学紛争当時で、時間はたっぷりありました。　彼に解説してもらいながら数冊読んだ筈ですが、何が書いてあったかさっぱり覚えていません。今なら少しはわかるかと思って、ときどき書棚から引っぱり出すのですが、半頁で眠れます。

学生時代の貴重な時間を何もわからない読書に費やしてしまったわけですが、全く無駄だったかというとそうでもないような気もします。

内容はともかく、良かったと思える点は、一見してこれはわからないと感じることでも、視点を変えてよく考えて見ようとする癖がついたこと、また、一見わかり切った事と思われても実はよくわかっていない事が多いことに気付かされ、何でも一応疑って見る癖がついたことなどです。

これらの癖は、研究には案外役立っているのではないかと思っています。

生理学の教科書にも、これらに比べて優るとも劣らない名著がたくさんありますので、ご入り用の方には紹介致します。

（じんない　こうのすけ）

シリーズ本との出会い(9)

わたしは方向性のない雑学者

法医学講座
教授　西　克　治

法医学に身を置いていると、世の中の裏側を知ることになってしまい、鑑定書作成が常となる。文書作成の訓練を受けるためか、もの書きが多く、鑑定事例を紹介する本が結構出ている。推理小説家の法医学事項相談役で、ご自身も「死にかたが分からない」などを執筆された先生がいたり、最近では、講談社から椹野道流（ふしの　みちる）としてデビューし、二足の草鞋を履いている若手女性法医学者もいる。一方で、「きらきらひかる」や「監察医SAYOKO」などの法医ものが漫画界で出版され好評の様である。世に法医学の存在を知らしてくれている最近の出版界の状況はある一面では愉快と感じている。

文筆能力に全くかけているわたしはというと本好きのこどもであったらしい。記憶にある最初の本は、ロビンソンクルーソであった。その後は、ご近所の払い下げの少年少女文学全集で二都物語などを読んでいた。ただ、母親買い与えの世界文学全集はいまだに手付かずのままであることから、長編小説は苦手で、もっぱら短編小説それも、推理小説が好みであったらしい。これも法医にいる遠因であろうか。

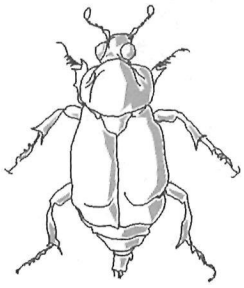
夏休みの読書感想文は苦手であった。ふんふんと納得するだけで、自分の意見など全く出てこなかったからである。これは、大学進学後も続いていた。英語Iの原著小説の読後感想文未提出で単位が足らなくなり、進学課程２年生の

後期は英語の講義にのみ出席していた。自宅通学生であったため、家にいるのも所在なく、田圃の中に建てられた進学課程とて、周囲に出かけるところもなく、進学課程図書館分室で田山花袋などの小説を読んで過ごしていた。古本店通いをしていたのもこの頃である。

高校生の時には、どうしたことか六法全書が愛読書であった。行政関係法を読みあさり、住宅地に存在した工場の増築問題に絡んで、建築基準法に基づく公聴会を開催してもらったこともある。大学専門課程でも、医学書よりも法律書を読んでいることが多く、購入するものは刑事訴訟法や民事訴訟法の解説書や医事法制関連のものに傾いていた。こうじて法医学にはまり込んでしまうこととなった次第である。この点からは、私が出会った一冊の本とは「六法全書」でありそうです。

ところで、死体の研究をしているのは法医学だけではないことを知っていただきたい。昆虫学者に教えを請いに行き、昆虫も死ぬと硬直するんです、といわれたときの驚きは今も新鮮である。死後の変化である死体の筋肉の軟らかさや弾力性、タンパク質の分解とアミノ酸遊離、発酵などの研究をしている人々は水産学や畜産学の一つの分野を占め、動物の死体現象と魚や肉の味、あるいは歯触り、歯応えに関連して多くの研究、論文、著作が公表されている。さかなのミイラは鰹節であるが、これを好物にしている鰹節虫や動物の腐肉を始末するシデムシ（死出虫）はヒトの死体も好物で、昆虫学や法医学の研究対象である。法医学では、溺死の証明のため植物性プランクトンの知識も必要になる。雑学であり、何事にも興味を示さなければならないのが法医である。この法医の興味に応えてくれそうなのが図書館である。

（にし かつじ）



シデムシ

附属図書館利用講習会（報告）（平成10年７月～12月）

７月９日㈭―10日㈮

第５回看護管理（ファーストレベル）研修会―「看護研究」の文献検索―

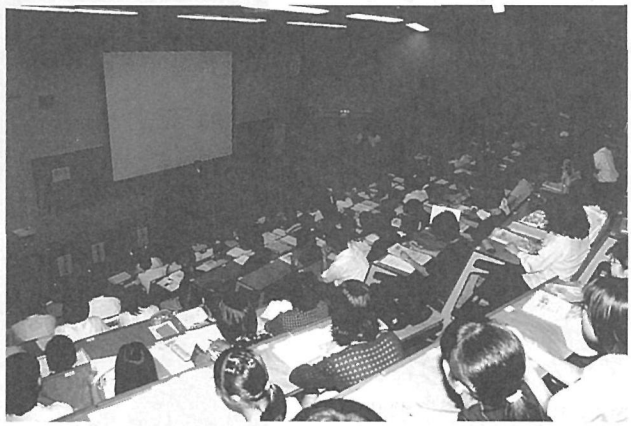
社団法人滋賀県看護協会より56名参加。

同協会の婦長補佐教育として行われた第５回看護管理（ファーストレベル）研修会の一科目「看護研究」において文献検索演習の場としてお貸ししました。

8月5日(水)

オープンキャンパス

大学進学を目指す高校生等を対象とした大学説明会が行われました。その一環として附属図書館も見学していただきました。



オープンキャンパス風景

12月21日(月)

平成10年度 看護学科第3学年文献検索ガイダンス—医学中央雑誌CD-ROM版の検索実習—

看護学科第3学年65名を対象とした文献検索実習ガイダンスを行いました。医学中央雑誌CD-ROMの基本的な検索実習を中心に、所蔵検索の方法および文献が学内にない場合の他大学への依頼の方法などを講習しました。

新着図書案内

老いの心理学　ウルズラ・レーア著、滝川昇訳
六法出版社、1991. WT 145 Leh

著者は、1954～55年にフリードリッヒ・ヴィルヘルム大学（ボン）より、哲学博士および心理学の学位を取得後、ボン大学その他ドイツを代表する幾つかの大学の助教授・教授等を歴任し、1988年からは青少年・家庭・婦人および保健担当大臣の要職に就く傍ら、老年学分野の研究活動にも尽力してきた。

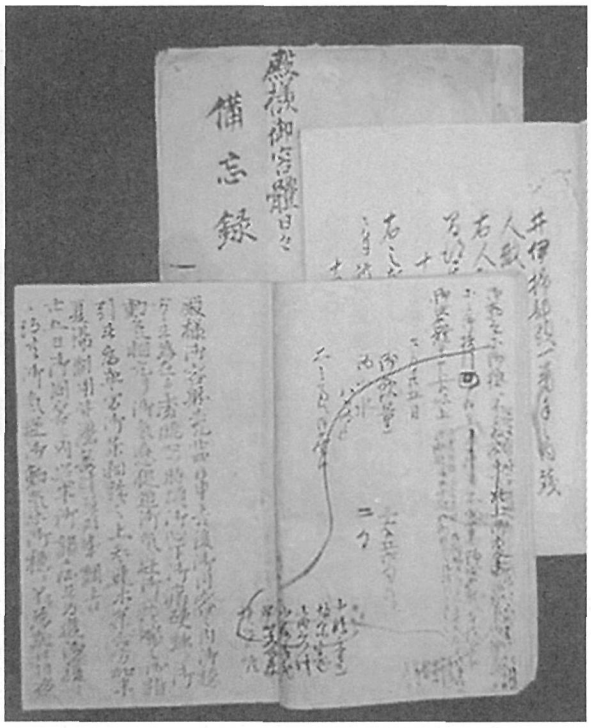
本書の序文の中で著者は、「……老いを欠陥モデルとする理解に反駁し、(すべての領域に通用する)全般的な能力の減退も、（すべての人々に通用する）普遍的な能力の減退も、（我々は）はっきり否定した……」、さらに「老いというものは存在しない——したがってそれについての普遍的な処方箋も存在しない！……老いとは個人的な過程（事象）である……」と論じる。

本文では、「発達心理学の観点から見た壮年」、「精神的能力の変化の問題」、「高齢者におけるパーソナリティ変化の問題」、「高齢期成人の特殊な問題」等といった内容で、自らの調査研究結果を引用しながら、多面的な視野に立って持論を展開している。

なお、訳者によれば、「原著はドイツにおいては勿論、全ヨーロッパにおいて多くの読者に感銘を与えた……」と紹介されている。

「河村文庫」古文書、彦根市史編纂の資料に提供

本学図書館の貴重図書である「河村文庫」の古文書が、このたび彦根市の一大事業として着手されている「新修 彦根市史〈史料編・近世〉」・「同〈通史編・近世〉」(平成14～19年に逐次刊行予定) 編纂の資料として提供されることとなり、昨年9月、同史編纂室のスタッフが来館して、古文書を閲覧のうえ、約160点についてマイクロフィルム撮影が行われた。



撮影に供した古文書の内訳は、彦根藩の医師であった河村家が所蔵していた「殿様御容体日々備忘録」「御用赴扣」等の出仕関係、「牛痘解廠」「牛痘所図面」「公命 蝦夷人種痘之図」等の医学関係、「道中記」「相州雑記」「御年貢上納帳」「亜米利加一条」「魯西亜船渡来一件」等の見聞記や生活記録関係が主である。

本学としては、日頃利用に供されることの少ないこれらの貴重書が、地元滋賀県の歴史や文化の発掘・継承・発展にわずかながらも寄与することができればまことに幸甚である。

図書館等の増改築(コラボレーションセンター)工事始まる

―今秋に完成の予定―

完成予想図

今年度の補正予算により、本学では「コラボレーションセンター施設」としてのマルチメディアセンター建物の新築・図書館の電動集密書架室増築と改修が着工される運びとなり、本年1月から工事が開始されています。この建物が完成すると、これまで数カ所に分散されていたマルチメディア関連設備が統合され、情報処理教育あるいは研究分野により効果的なサポートが期待できる環境が整えられることとなり、一方図書館では約7万冊収蔵可能な電動集密書架が増設されるとともに館内も一部リニューアルされます。

なお、建物完成は今秋の予定となりますので、その間は利用者の方々に多大のご不便をおかけすることになりますが、ご協力のほど、よろしくお願いします。

「第５回医学図書館員基礎研修会」、本学で開催

―― 全国49名の若手図書館員が参加 ――

医学図書館協会の主催で５年前より実施されている「医学図書館員基礎研修会」が、昨年８月５～７日の３日間、本学図書館の当番により開催された。

夏真っ盛りのここ近江の地に、北海道から九州におよぶ全国49名のフレッシュ図書館員が集い、看護学科棟と一般教養棟の教室で、講演・講義・演習・グループ討議などのカリキュラムを受講した。

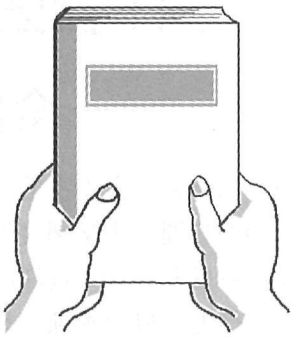
講演では、本学の永田講師による「バーチャル・リアリティと図書館の将来」、大阪医科大学の伊東助教授や光華女子大学の谷口助教授による、図書館への期待と未来像に関するテーマで具体例にもとづいた話が展開され、いずれも参加者に様々なインパクトを与え、図書館員としての使命感を啓発するような意義深い内容であった。

講義等は、近畿地区の大学図書館員による業務関連講義とコンピュータ端末操作を介しての情報検索演習、さらに日常業務に関する意見交換を内容とするグループ討議が行われ、参加者は真剣な面持ちで受講する中で、利用者のニーズに対してより的確かつ迅速に対応するための研鑽を深めた。

また、懇親会は足場に便利な駅前のイタリアレストランを会場とし、ビールやワインを片手にお互いの交流を深め、果てはかくし芸が飛び出すなど、大いに盛り上がった。

さらに、研修会終了後に行われた自由参加プログラム「パソコン講習会」にも35名が参加し、研修の疲れも何のその、４時間におよぶパソコン操作に奮闘していた。

著書寄贈のおねがい



平素は本学の先生方から、ご自身が著者あるいは編者となって刊行された著書につきましては、１部を図書館に寄贈いただいておりますが、今回は残念ながらございませんでした。

今後とも図書館資料の充実のため、著書を刊行されました折にはぜひとも図書館に寄贈下さいますよう、よろしくお願いいたします。

附属図書館委員会委員

平成11年２月１日現在

教　授	前田　敏博	解剖学第一講座(委員長)	
教　授	工藤　　基	解剖学第二講座	
教　授	陣内皓之祐	生理学第一講座	
教　授	堀池喜八郎	生化学第一講座	
教　授	上原　正巳	皮膚科学講座	
教　授	吉武　一貞	歯科口腔外科学講座	
教　授	泊　　祐子	地域生活看護学講座	
教　授	寺田　俊明	数学	
助教授	森田　一平	独語	
教　授	山路　　昭	薬剤部	

◆表紙写真について

長浜市高橋町の琵琶湖岸にさいかち浜がある。地名の由来は、さいかちの木（豆科の落葉高木）が浜一帯にあったことからで、現在はわずかに１本が現存するのみ。

浜は春から秋にかけてはウィンドサーフィンが湖面を、夏には遠浅の水泳場として、地元はもとより遠く名古屋等の中京方面から家族連れでにぎわう。

ところが冬には湖面から吹きつける風雪で想像を絶する様子を呈するが、芽吹きの春になると、あの冬の厳しさを耐えた浜辺の木々がいとおしく感慨深い。

滋賀医科大学附属図書館報「さざなみ」No.44　　1999年２月発行

編集・発行　滋賀医科大学附属図書館　〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL.077-548-2077　FAX.077-543-9236